スロベニアのクズマから登場した、重量級ベルトドライブ式アナログプレーヤーシステム

低域の支えが好ましく、心地よいグルーヴをもたらす

ADプレーヤー／トーンアーム／カートリッジ

三浦孝仁

欧州を中心に高い評価を得ているクズマ社（KUZMA）のターンテーブル、スタビ・アール（STABI・R）を紹介する。同社は1982年に設立されたスロベニアの企業。社名は主宰者フランツ・クズマ氏の名前からである。日本市場には90年代半ばにスタービ・リファレンスとTT1000の2機種が紹介されているから、STABI（当時の呼称はスタービ）の名前にご記憶のある読者もいるだろう。

スタビ・アールは無垢のアルミニウムから切削された重量級ボディが目を引く、物量投入タイプのベルトドライブ方式ターンテーブルだ。トーンアームを乗せるブロックも切削筐体で、追加できる同様のツインアーム用ブロックも用意されている。ボディにはDCモーターと電源部が格納されており、背面に電源インレットを備える。

8kgのプラッターはクズマの伝統といえる、透明アクリルをアルミニウム材で挟んだサンドイッチ構造。最大の特徴は倒立型の軸受けによるサブプラッターであろう。ルビー製ボールを頂部に据えた軸受け構造は、メインプラッターと共に前述したスタービ・リファレンスから継承している。

ここでは、同社の4ポイント・トーンアームとCAR50という高級フォノカートリッジを装着したコンプリート状態での音を聴いた。トーンアームは4点の軸受けを持ち、垂直動作と水平動作のそれぞれにオイルダンプ槽が与えられている。軽量化と剛性の両方を追求したテーパー形状の太いストレートアームも特徴。出力ピンから端子まで直結されている内部配線は、銀を配合した最高品質の特殊合金だという。CAR50はサファイア製カンチレバーとマイクロリッジ針を組み合せたMC型。十字型の発電コイルがあり、製造には50年以上の経験がある日本企業が協力している。

本誌試聴室でのシステムは、アキュフェーズのC47フォノイコライザーアンプ、同社C2850プリアンプとA250パワーアンプの組合せ。スピーカーシステムはB&W800D3である。

同社製のスタビライザーを併用し、私はデイヴ・グルーシンのシェフィールド盤から聴いた。ロン・カーターが弾くウッドベースの鳴りが厚く、総じて低域の支えが好ましい音である。ダイレクトカッティングらしい鮮度感と音離れの良さもじゅうぶんな、色濃い音を聴かせてくれる。ドナルド・フェイゲン『ナイトフライ』からの最内周曲「マキシン」は、重厚なピアノの響きに続いてエレクトリックベースとドラムスによるリズムを克明に刻む。やはり音楽の重心が低く、安心感を抱かせながら心地よいグルーヴをもたらしてくれるのだ。

アンセルメ指揮の『三角帽子』では、音場空間の拡がりと豊富な情報量を伴う音の鮮明さが印象的だった。彫り深く締りのある音像構築には、ソリッドな金属製ボディが多大な貢献をしていると思わせた。

スタビ・アールには、シリアスなアナログ盤リスナーも満足させる完成度の高さが宿っている。一聴の価値がある要注目のターンテーブルといえよう。

4ポイント・トーンアームは、アルミのソリッド材から削り出し加工されたアームチューブを持つ。軸受けは水平回転、垂直動作双方をオイルダンプでき、写真に見えるふたつのネジと、それぞれの下部にあるオイル槽がそのダンパー機構。ネジを外したりオイルを空にすることでオイルダンプを使わない選択肢もある。針圧と高さをひじょうに細かく精密に調節できるのも特徴である。

サファイアカンチレバーと4N銀コイル線を特徴とするCAR50は同社のセカンドトップとなるカートリッジで、本国では全6モデルをラインナップしている。なお、4ポイント・トーンアームのヘッドシェル部分は着脱可能。

クズマ Stabi R　4Point　CAR50

ターンテーブル（Stabi R）●駆動方式:ベルトドライブ●回転数:33・1／3、45rpm●プラッター自重:8kg●寸法／重量:W480×H150×D380mm／36kg●備考:写真・価格はオプションのクランパー（¥70,000）含む。ツインアーム仕様（Stabi RD・¥1,600,000）あり。回転数に78rpmを注文時に追加可能　**トーンアーム（4Point）**●型式:スタティックバランス型●スピンドル／ピボット間:264mm●適合カートリッジ重量:〜35g●重量:1.65kg●備考:写真・価格はDIN端子仕様、他に各種仕様あり。　**カートリッジ（CAR50）**●発電方式:MC型●出力電圧:0.3mV（1kHz、3.54cm/sec）●内部インピーダンス:6Ω●適正針圧:2g●自重:17g●問合せ先:シーエスフィールド㈱☎076（491）2207